三歳児のある一週間の記録

村石京子

幼児の生活はあそびにある。三歳児の幼稚園の生活の中心は、友だちと楽しくあそんで過ごすことにその流れの全てがかかっている。子どもの毎日のプログラムは、友だちとの関係において展開されていくものであり、教師の計画や指導案が子どもの実際の生活よりも重くなってはならないと思う。

子どもの毎日が楽しくあるように、子どもと友だちとの関係が出来るだけ緊密なものとなるように、それも望ましい姿においての結びつきが行なわれるように、との考えを根本におきながら三年保育の一年間を過ごしてきた。

一学期には園の生活になれにくくて抵抗があった子どもや、友だちとの間にいさかいの多い子どももあったが、お互い同士の親密感や努力や、心の成長などのつみ重ねによって二学期後半からはあそびにひたりきれる時間も次第に長くなった。いきいきと活動しよくあそぶ子どもたちの前に来ると、教師の計画は色が薄くなってしまうこともある。今日はうたを新しく教えようとか、童話を聞かせようと計画してあっても、時間のたつのもわすれてあそんでいる姿にひきこまれてこちらもつい予定の時間の過ぎてしまうこともしばしばであった。

また製作などは、自分たちのあそびに必要なものをつくりたいと提案されて、それに適当な材料を探したり、つくる手伝いに大わらわの日もあった。その他にもスキップをしたいとか、レコードをかけてとか、紙芝居やって、と次々と子どもの要求が出される。それが今日のいろいろな予定とにらみあわせて可能である限りは子どもの提案をうけいれてきた。

これは、子どもと教師との関係は、子どもと友だちとの関係と同等程度の位置づけをもち、子どもの発案と教師の計画においても同等程度の重さをもちたいと考えたからである。このことは常に一定不変のものであるはずはなく、ある場合には教師の存在が子どもの前に出る必要性の高い場面もあるが、出来れば教師は子どもの後だてになって見守り、子どもたちの姿が前面に出ていきいきと活動するような生活でありたいと考えたからである。

三歳児のうちから、こうした基礎を培ってこそ、四歳児・五

歳児になっての園の生活は本当の意味で幼児を中心とした生活がつくれると思い、この一年間を過ごして来た。思うことは山のようにあってつきないのに、実際の姿は平凡な記録にしか残っていない。

あそびにはじまってあそびにおわった三年保育の日々もこうした気持で過ごして来たということを記録の前文として加えさせていただくことにした。

十二月四日（月）九・〇〇～一・三〇

・自由あそび

・テレビ〝くまの子バンブ〟

・うたをうたったり、リズムあそびをしたりする

・おべんとう・はとぽっぽ体操

先週から暖房が入ったので部屋の中はとてもあたたかい。部屋の中ではままごとあそびが盛んである。よくままごとあそびというと役割をきめたりすることにかなりウエイトがおかれたりすることがあるが、この級の子どもたちはあまりそれにこだわらないのが特徴である。今日はM子の提案で「ピクニックに行きましょう」ということになり、かごの中にままごと道具一式を入れてゆうぎ室まで出かけたりしていた。

そのうちに、「もしもし、先生ですか。今日は〇〇ちゃんのお誕生会をしますから、お菓子をもってあそびに来て下さい」とか、「赤ちゃんがかぜをひきましたので、お薬をもってすぐ来て下さい」などと電話がかかったりして、私も応接にいそがしい。

男の子たちはつみ木やブロックなどでウルトラセブンごっこをしてあそんでいるが、時々ままごと家から「火事です」とか「かいじゅうが来ました」とかよばれるといそいで手製のホースをもって行ったり、指から何とか光線を発してかいじゅうをやっつけたりして、結局みんないっしょになったりしてあそんでいる。

一〇時四〇分近くなってもあそびもひとしきり山がすぎたので

片づけをしてから、毎週継続してみている〝くまの子バンブ〟のテレビを見る。その後おべんとうまでの時間、どんぐりやまつぼっくりのうたをうたったり、リズムあそびをしたりスキップをしたりする。

十二月五日（火）九・〇〇～一・三〇

・自由あそび

・（ウルトラセブンのめがねをつくる）

・おべんとう・はとぽっぽ体操

このところあそびの中にテレビの影響によるごっこあそびが盛んに現われだしている。今日は男の子のグループ全員と女児ではS子とT子が仲間入りしてサンダーバードとウルトラセブンごっこが大はやりである。以前はブロックを使って普通の飛行機を作ってあそんでいたが、最近はサンダーバード一号とか、ウルトラフォークとか名前がつけられている。積木でつくった飛行場は立体式になっていて、いざというときは地下飛行場からもかくしてあったのが飛びたっていく。いかにもテレビで見たことの再現らしいとおもしろかったり、どんなに子どもへの影響が大きいかを改めて再認識したりする。

一〇時過ぎにY夫がウルトラセブンのめがねをつくりたいと言い出したことにより、何人かが次々と僕もつくる、つくるとはじまって、午前中はこれに大いそがしであった。

ウルトラセブンのめがね

十二月六日（水）九・〇〇～一一・三〇

・自由あそび

・（ウルトラセブンのめがねをつくる）

昨日の続きでウルトラセブンのめがねをつくることが今日もひとしきり盛んである。昨日つくったK夫やS子たちはもう一つ違う色のセロファンをはってつくろうとしたり、新しく参加した

友だちにそのやり方を説明したりしている。試みても思うような大きさに切りぬけない人たちに、少し手をかして手伝ってあげる。

M夫はホッチキスの使い方が手なれて上手である。製作は苦手の方のN夫が一生懸命大きすぎためがねを修正しているようすを見て、友だちのあそびの中で是非必要なものは彼もこんなに熱心につくるのだと感じさせられる。結局、このY夫の提案したためがねにはいつの間にか全員が参加する製作活動になっていた。

出来上がったものをつけて、にぎやかにあそんだあと、自分のひき出しに大事にしまっている。ひき出しの中には、トランシーバー、ピストル、双眼鏡、おさいふやお金、お姫さまごっこのかんむりなどあそびに使われる材料がぎっしりである。

十二月七日（木）九・〇〇～一・三〇

・自由あそび

・おべんとう・はとぽっぽ体操

・お話〝お菓子の世界〟

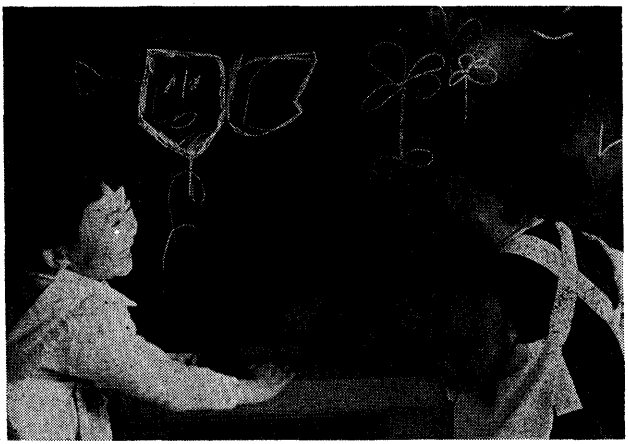
昨日に続いてウルトラセブンごっこが今日も盛ん、双眼鏡やピストルなどもつけて山の方まで探検に遠征している。

お山のジャングルジムはいつの間にか円盤になって〝五、三、二、一、ゼロ発射ドカンー！〟という声とともに宇宙へ出発する。何回も円盤にのって宇宙へ飛びたったり、地球へもどったりしているうちに、ウルトラ警備隊のバッジをつくることになり、部屋にもどる。これは簡単に牛乳のふたをマジックでぬってセロテープで前かけにとめると出来上がりである。

女の子たちは人形芝居をしたり、自由画帳や黒板に絵をかいた

りしてあそんでいた。A子は色のえらび方が美しく表現活動が最近のびて来ていると感じる。

お帰りの前の片づけが今日は随分早い。うたをうたったあと、お話〝お菓子の世界〟を聞いてから帰る。



十二月八日（金）九・〇〇～一・三〇

・自由あそび
・ロボットをつくる
・おべんとう・はとぽっぽ体操

昨日までのウルトラセブンのめがねの製作も一応出来上がったようなので、今日は大きな段ボールの箱でロボットを共同でつくることにした。体が入るぐらいの大きな箱を幾つかもって来ると「何をつくるの？」「何するの？」と興味深々であったが、箱をくりぬいて手や首が出るようにするとそれをかぶって「ロボットになった」と大よろこびである。さらに少し小型の箱は顔にして目鼻をつけてすっぽりとかぶると一だんと本物のロボットらしくなる。A子・C夫・M夫はよく協力して「ここはこうしよう」「こうがいいわよ」などと話しながら楽しそうにつくっていた。

S子とK夫はちょっとグループに入りそびれて困ったようすなのでN夫たちの仲間にいっしょに入れてもらう。同じ製作活動を行なう場合にでも、個人のものをマイペースで製作する場合と、何人かで共同して一つのものをつくる場合とでは子どものようすにいつもと違った反応が見られる。

ロボットは三組出来上がったが、どうやらM夫・T夫が独占しているようなようすなので、かわりばんに使うことをみんなと約束する。そして午後までずっとロボットあそびをして一日過ごした。

十二月九日（土）九・〇〇～一一・三〇

・自由あそび
・ゆうぎ室でリズムあそびをする。

朝のうち、昨日つくったロボットをかぶってかわるがわるロボ

ットになってあそぶ。今日は昨日約束したのにA夫がいつまでもかわらないといってM夫とK夫がいいにくる。以前にくらべて随分協調性がのびて友だちあそびが上手になって来たと思ったが、新しいものに対してはやはり自分中心なものが出るのであろうか。でも今日は出来なくても、明日は出来るかもしれない。彼の心の成長を待ちたいと思う。

ゆうぎ室が使える日なので、一〇時半頃からゆうぎ室へ行ってみんなでロボットや動物のリズムあそびをする。「スキップをたくさんしてね」とN夫から注文が出る。スキップは女児は全員一学期終りまでに出来るようになった。

男児の中で最近まで三人だけ出来ずに残っていたが、先週はじめからN夫が出来るようになってうれしくて仕方のないようす。「スキップしようよ」と時々さいそくされる。K夫もあと一息で出来そう。A夫はちょっとまだ前途遼遠な感じであるが、自分の番が来るとにこにこしながら走ってぴょんぴょんとんでまわっているようすは実にほほえましい。「がんばれ、がんばれ」と声援を送りたくなるような思いである。

一週間の終りなので部屋を少していねいにかたづけたりしてから、来週もまた楽しくあそびましょうと話し合って月曜日を楽しみにする気持をもって帰りにする。